

設立趣旨

NPO法人 ゆこびと は、「心の貧困」の解決のため、「心の糧」となる人と人、心と心の温かなふれあいを生み出す（地域家族を形成する）活動を行います。

現代の日本は物質的に恵まれ、衣食住には困ることがないように見えます。しかしながら、GDP世界3位の日本で、6人に1人のこどもが相対的貧困に苦しみ、また、自殺者の人口比率は世界1、2位を争う現状です。

格差社会が広がり、若い世代の世帯収入は20年前と比べ15%下がり、200～300万台が激増しています。労働時間の長時間化、非正規雇用の増加。共働きでないと生活が困窮してしまう、そんな状況の中、若い親世代は共働きを余儀なくされています。またそのような社会構造ゆえに、こどもたちは家に取り残され、孤食、コミュニケーションの機会の喪失、社会的相続の弱体化、貧困の連鎖などにさらされ、生きにくさを背負うこととなります。

さらに、高齢化と経済状況の悪化により、家族の自助作用が働きにくくなる中、高齢者の単身世帯の増加、孤独も問題になっています。ある内閣府の調査では高齢者の独居の方は1週間に1回挨拶程度の会話しかしていないという調査もあります。

現代は、こどもも高齢者も「無縁社会」「単身世帯の増加」「核家族化」などの社会変化の中で、地域コミュニティも喪失し、社会そのものからの孤立化が進んでいる状態なのです。

小さなきっかけで、経済的、精神的、環境的に日々追い込まれていく現実。

現代の世の中では、お金は生きるために必要なものです。しかしながら、誰からも必要とされない、誰からも気にかけてもらえない、誰とも笑顔を分かち合う機会がないという心の飢えはお金で満たすことはできません。

私たちは、安心して信頼できる人間関係が失われしまいつつある、分かち合いや助け合いが生まれにくくなってしまった、「心の貧困」の広がる現代に「地域の食卓」をつくることで、人と人、心と心の温かなふれあいを取り戻します。そして、地域に大きな家族のような心安らげる「だんらんの場」を作り出すことにより、お互いに相手のことを思いやり、慈しみ合う関係の中で、人が生きるために必要な「心の糧」を生み出します。

たくさんの心の糧が、心の飢えを満たし「心の貧困」が解決されたとき、一人一人が生きる喜びを感じられる、良い循環をもった心豊かな日本が育まれていくものと確信しています。